

2019年3月期 決算概要



2019年5月

株式会社ビーアールホールディングス

主要数値の実績

売上高 2年ぶり増収 営業利益・経常利益 4年ぶり減益 当期純利益 8年ぶり減益 手持高は過去最高！

過去最高

	前期実績	当期計画	当期実績	前年増減額	計画増減額
受注高	37,451	35,400	36,032	▲1,419 (▲3.8%)	+632 (1.8%)
手持高	42,323	49,700	50,744	+8,421 (19.9%)	+1,044 (2.1%)
売上高	23,669	28,000	27,333	+3,664 (15.5%)	▲667 (▲2.4%)
売上総利益	3,880	4,140	3,645	▲235 (▲6.1%)	▲495 (▲12.0%)
営業利益	1,674	1,700	1,386	▲288 (▲17.2%)	▲314 (▲18.5%)
経常利益	1,632	1,650	1,415	▲217 (▲13.3%)	▲235 (▲14.2%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,025	1,100	741	▲284 (▲27.7%)	▲359 (▲32.6%)
1株当たり当期純 利益(円)	26.36	28.26	18.94	▲7.42	▲9.32
ROE (%)	20.4	20.0	12.8	▲7.6	▲7.2

今期決算のトピックス

● 営業利益の減少（対前年同期比▲288百万円）

当期の営業利益につきましては、製品販売事業を除き堅調に推移してまいりました。しかしながら、製品販売事業においては、主にキョクトウ高宮株式会社の高宮工場において、建築部材製造ラインの見直しを実施することによる選別受注の実施から、製品販売事業の売上高が前年同期比986百万円減少いたしました。これによる工場稼働率の低下に伴い、製品当たりの固定費負担が増加し、期末在庫製品の評価損（約74百万円）の計上を含め、製品販売事業のセグメント利益が前年同期比300百万円減少の▲203百万円となりました。この結果、営業利益は対前年同期比288百万円減少の1,386百万円となりました。

● 当期純利益の減少（対前年同期比▲284百万円 減損損失167百万円の計上）

次年度以降の高速道路会社によるPC床版取替え工事の発注量の増加が見込まれることから、PC床版製造ラインの新設とともに建築部材の製造ラインも見直しすることになりました。

また、中国地方の在来線及び新幹線のマクラギも既存のラインを見直して、増産することが可能となりました。この生産量の増加に対応し、ストックヤード確保のため、各工場及び機材センターのレイアウト見直しを進めております。

これらの対応により、キョクトウ高宮株式会社において従来の建築部材製造ラインの一部固定資産についての減損損失（約113百万円）と極東興和株式会社の機材センター統廃合に伴う減損損失（約53百万円）を特別損失として計上したため、税金等調整前当期純利益が前年同期比390百万円減少となりました。

また、繰延税金資産の回収可能性の見直し等により、税金費用が105百万円減少したことにより、親会社に帰属する当期純利益は対前年同期比284百万円減少の741百万円となりました。

なお、キョクトウ高宮株式会社の高宮工場におけるPC床版製造ラインの新設及び見直しに伴う改修後の製造ラインは8月に稼働を開始する予定であります。

次期の業績予想及び配当

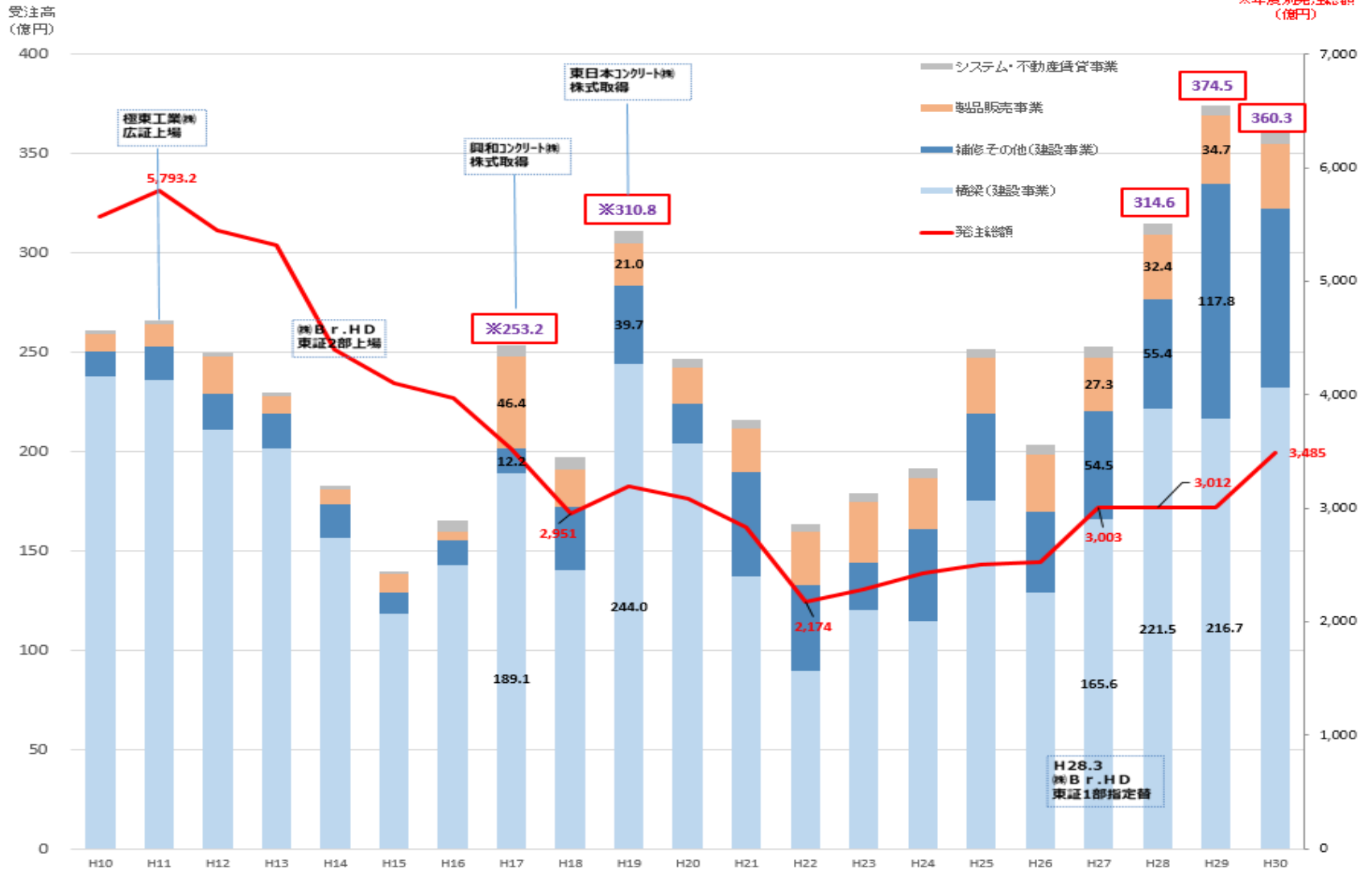
過去最高の売上高および当期純利益 ・ 4年連続増配!!

百万円

	2019.3期	2020.3期 予想	増減額	増減率 %
売上高	27,333	34,000	+6,667	24.4
売上総利益	3,645	4,000	+355	9.7
営業利益	1,386	1,750	+364	26.3
経常利益	1,415	1,700	+285	20.1
親会社株主に帰属する当期純利益	741	1,050	+309	41.7
1株当たり当期純利益 (円)	18.94	26.83	+7.89	-

	2019.3期	前期比	2020.3期 予定	前期比
1株当たり年間配当金	7円 (中間3円)	+1円50銭	8円 (中間4円)	+1円
連結配当性向	37.0%	+16.1%	29.8%	▲7.2%

年度別セグメント別受注実績・年度別発注額推移比較



※年度別発注総額は、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会の調べによる統計値です
 ※H17年度の受注高には興和コンクリート㈱の全株式を取得したことに伴い、興和コンクリート㈱の繰越高56億円が含まれております。
 ※H19年度の受注高には東日本コンクリート㈱の全株式を取得したことに伴い、東日本コンクリート㈱の繰越高54億円が含まれております。

当期の主な受注工事

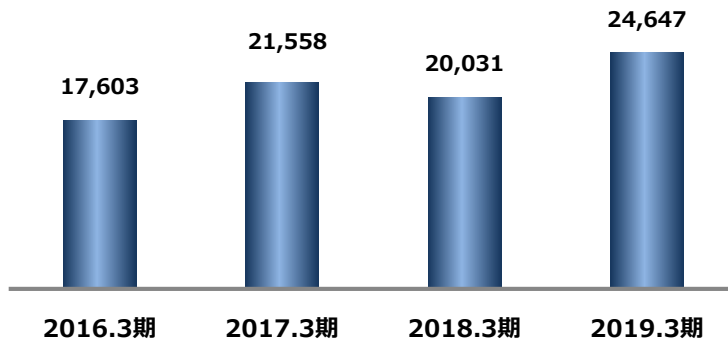
工事名称	発注者	セグメント
新名神高速道路 成合第一高架橋工事	西日本高速道路(株)関西支社	建設事業
新名神高速道路 大戸川橋他2橋(PC上部工)工事	西日本高速道路(株)関西支社	建設事業
東名高速道路(特定更新等)庄内川橋他1橋床版取替工事	中日本高速道路(株)名古屋支社	建設事業
広島自動車道(特定更新等)烏帽子第一橋(下り線)他1橋床版取替工事	西日本高速道路(株)中国支社	建設事業
東名高速道路(特定更新等)大井松田IC~御殿場IC(左ルート)間床版取替工事(平成29年度)	中日本高速道路(株)東京支社	建設事業
岡山自動車道 佐山橋(PC上部工)工事	西日本高速道路(株)中国支社	建設事業
平成29年度県債道路受56-1-001号 町道女川出島線出島架橋本体工事	宮城県	建設事業
倉敷立体船穂高架橋PC上部その4工事	国土交通省 中国地方整備局	建設事業
平成30年度県債道路受(復興)49-1-002号49-1-003号 (仮)鎮守大橋上部工工事(右岸)(左岸)	宮城県	建設事業
ERS尼崎DC(計画)	民間	製品
付替県道7号橋上部工事	国土交通省 近畿地方整備局	建設事業
東京外かく環状道路 本線トンネル(北行)東名北工事	民間	製品

セグメント別情報

建設事業

売上高(累計)

(単位：百万円)

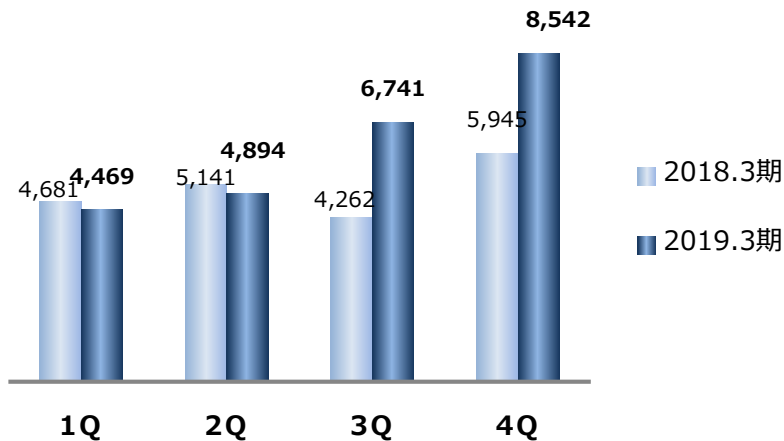


売上高 246億47百万円 (対前期比23.0%増)

- 手持工事の進捗率向上
- 追加・変更工事による増額契約

売上高(四半期別)

(単位：百万円)



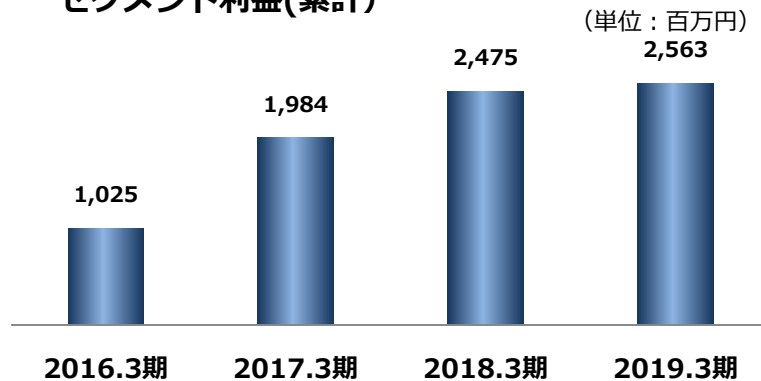
売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018.3期	+12.9%	▲1.6%	▲23.8%	▲9.8%	▲7.1%
2019.3期	▲4.5%	▲4.8%	+58.2%	+43.7%	+23.0%

セグメント別情報

建設事業

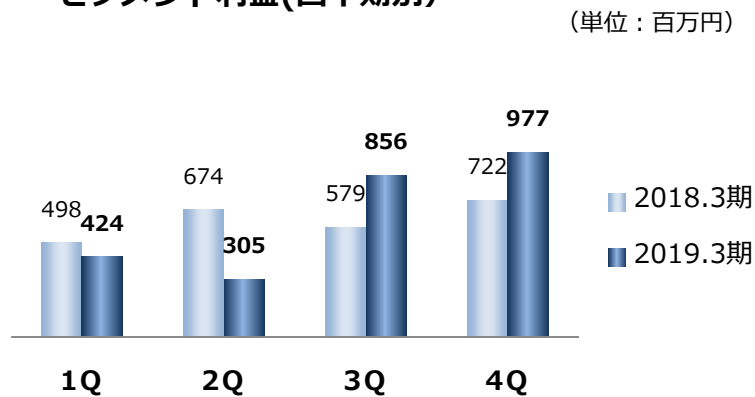
セグメント利益(累計)



利益 25億63百万円 (対前期比3.6%増)

- 粗利益の増加
- 不採算工事の減少
- 完成工事補償引当金取崩し

セグメント利益(四半期別)

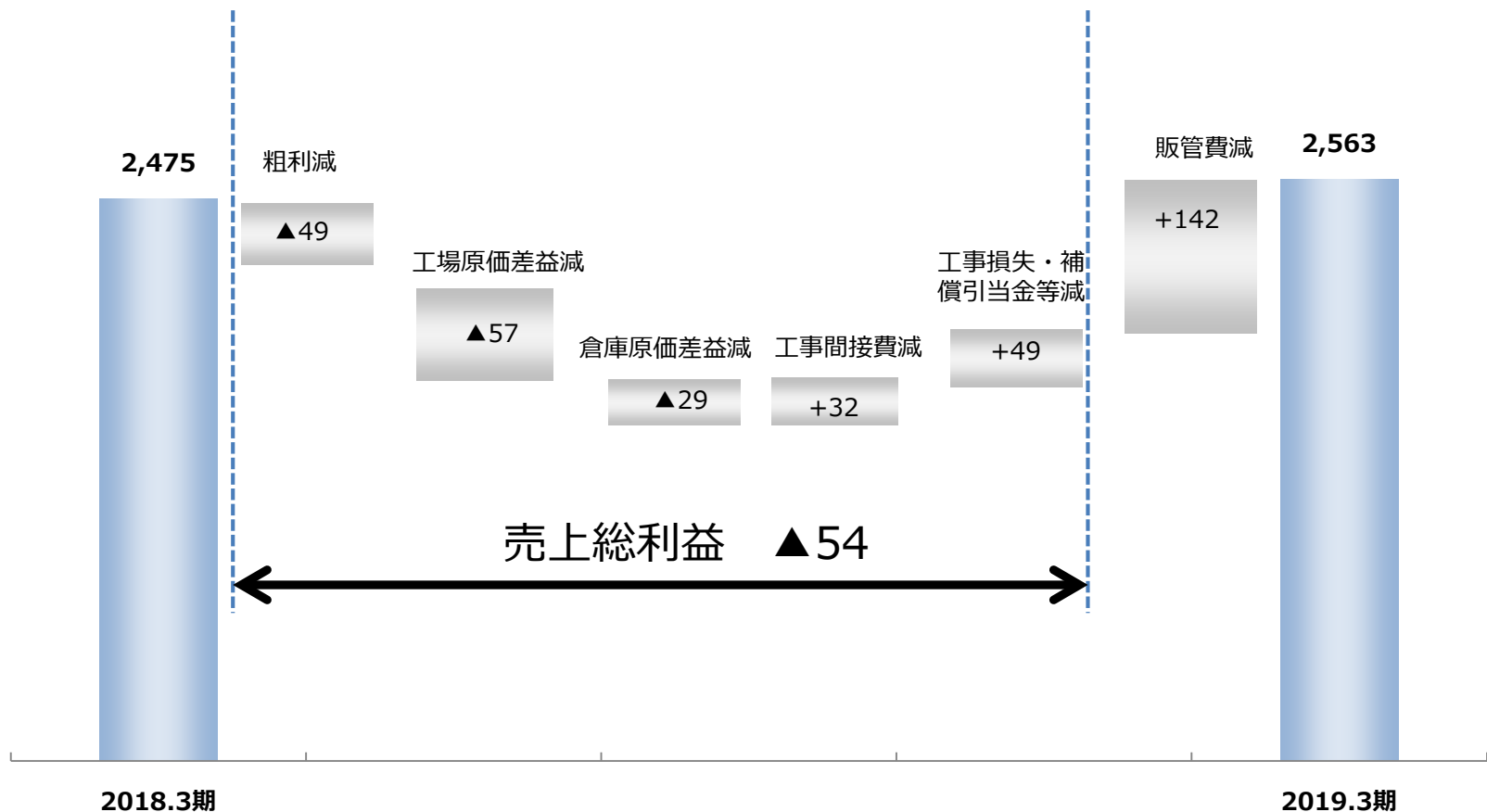


セグメント利益 対前年同期増減

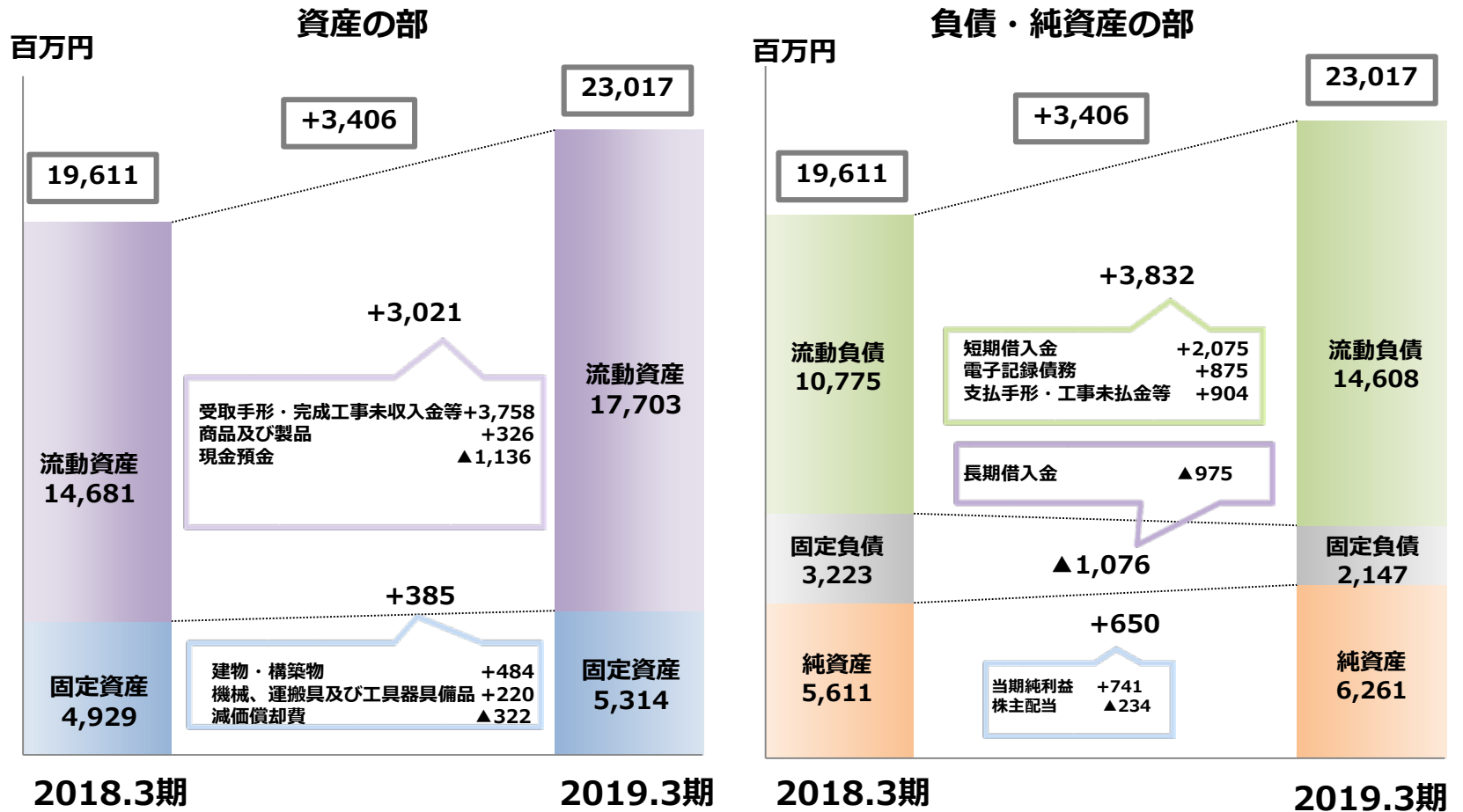
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018.3期	+148.2%	+84.9%	+3.9%	▲16.0%	+24.7%
2019.3期	▲14.9%	▲54.7%	+47.8%	+35.3%	+3.6%

セグメント利益増減 (前年同期差)

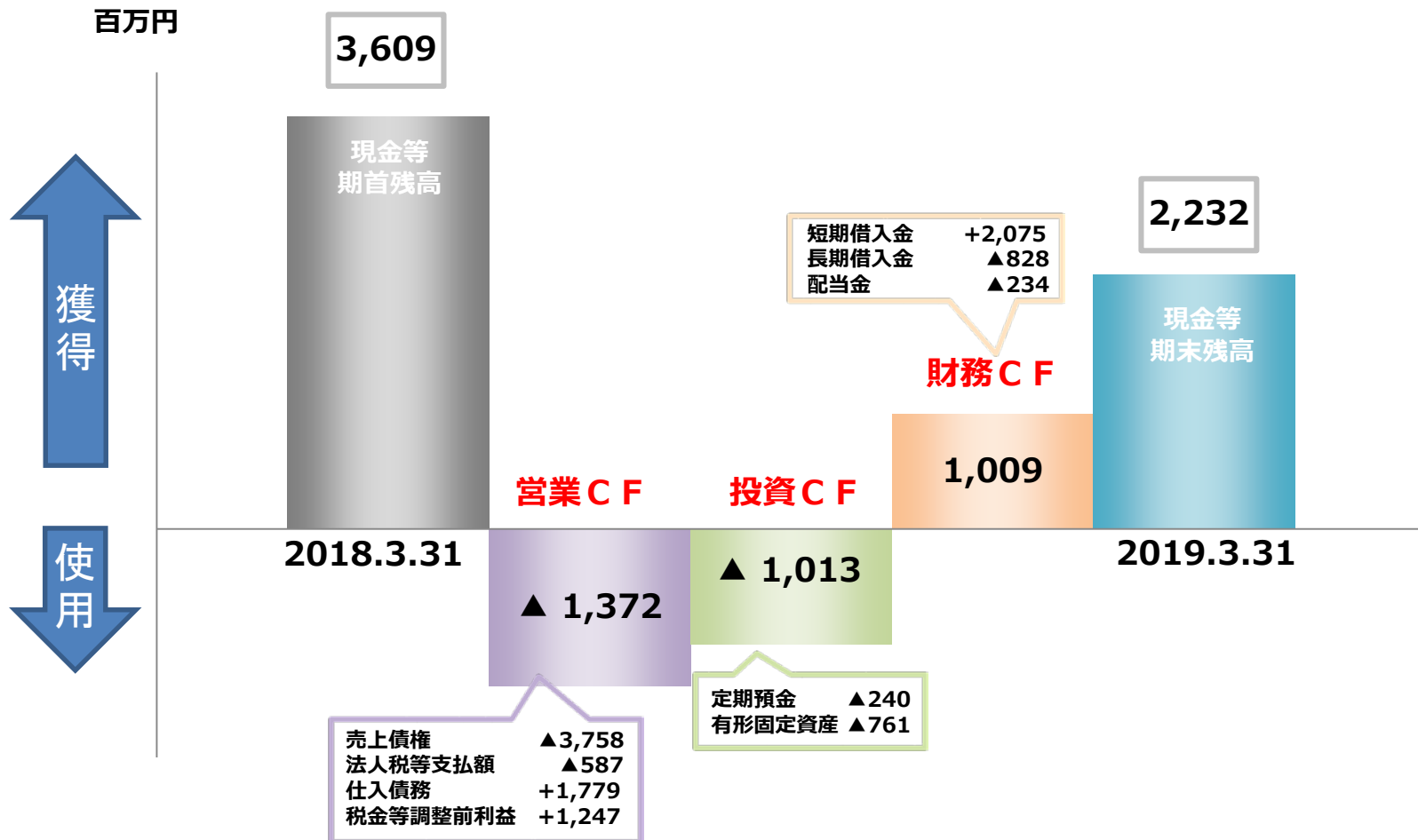
(単位：百万円)



連結貸借対照表



連結キャッシュ・フロー



【参考】発注先別受注高、売上高、手持高（建設事業）

百万円

2018.3期	期首手持高	当期受注高	当期売上高	粗利益※	粗利率 %	期末手持高
国交省	3,248	5,167	4,623	975	21.1	3,792
その他官公庁	7,734	9,716	7,029	1,212	17.2	10,421
NEXCO	11,503	3,851	4,182	436	10.4	11,172
JRTT	2,562	9,286	144	12	8.3	11,704
民間	2,457	5,436	4,054	990	24.4	3,840
計	27,504	33,456	20,031	3,625	18.1	40,929

2019.3期	期首手持高	当期受注高	当期売上高	粗利益※	粗利率 %	期末手持高
国交省	3,792	2,362	3,806	613	16.1	2,348
その他官公庁	10,421	7,160	9,541	1,775	18.6	8,040
NEXCO	11,172	15,334	2,075	116	5.6	24,431
JRTT	11,704	2,701	4,216	343	8.1	10,189
民間	3,840	4,675	5,009	777	15.5	3,506
計	40,929	32,232	24,647	3,624	14.7	48,514

- ✓ JRTT、地方自治体からの売上が大幅に増加したことにより売上高対前期比23.0%増
- ✓ 期末手持高48,514百万円は過去最高額

過去最高

※粗利益には、過年度原価、工場、倉庫及び工事内勤者の共通原価は含めておりません。